

平成30年度 学力向上を図るための全体計画

東京都 教育目標

- 互いの人格を尊重し、思いやりと規範意識のある人間
- 社会の一員として、社会に貢献しようとする人間
- 自ら学び行動する、個性と創造力豊かな人間

練馬区 教育目標

- 人間尊重の精神を基調とし、学校・家庭・地域社会との緊密な連携のもとに、心身ともに健康で知性と感性に富み、人間性豊かな子どもの育成を図る。

豊玉中学校 教育目標

人間尊重の精神を基調とし、21世紀に生きる人として、自ら学ぶ意欲をもち、社会の変化に主体的に対応できる心豊かで、たくましい人間の育成を図るために、下記の教育目標を設定した。

- 心身ともに健康で自主的に努力する誠実な人となることをめざす。
- 1 誠実 2 敬愛 3 努力

学校、地域の実態

- 生徒は素直で明るく朗らかであり、学習・行事・部活動に意欲的に取り組んでいる。開校70年の歴史を有し、保護者・地域の方々には教育活動への関心も高く、協力的である。

期待される生徒像

- 自ら学ぶ意欲をもち、社会の変化に主体的に対応できる心豊かでたくましい生徒。

学校経営方針(学力向上にかかわる要点)

- 規律ある授業の確立
- 主体的で深い学びのある授業を展開
- 興味関心をもたせるしかけの授業を展開
- 学校図書館の活用
- 個別指導、習熟度別少人数学習指導により基礎・基本の定着を図るとともに伸びる生徒を伸ばす指導
- 調べ学習、情報活用能力を高める学習、表現力を高める学習の推進

各教科の指導の重点

- 基礎的・基本的な内容の確実な定着。
- 生涯にわたる学習の基礎・基本の定着。
- 情報活用能力の育成と環境教育の視点を重視した指導。
- 指導方法や評価方法の工夫・改善。
- コミュニケーション能力の育成。
- 個性の伸長を図ることと多様な能力に応じた興味・関心・意欲の喚起。

総合的な学習の時間の指導の重点

- 体験的・啓発的活動を取り入れた「生き方学習」を展開し、「生き方」を学習する。
- 「環境」「国際的な見地に立った福祉」を学習する。さらに教科横断的に国際理解教育に取り組み国際感覚を身に付けさせる。
- 探求的な学習を行う。
課題設定→情報収集→情報の整理・分析→まとめ・表現

進路・キャリア教育の指導の重点

- 一人一人の社会的、職業的自立に向け、必要な能力や態度を育成する。
- 3年間を見通した系統的かつ段階的な計画を基に、自己理解を深め、体験的な学習を通して、将来にわたる「自己の生き方」を意識して考え、行動する力を育成する。

本校における「確かな学力」

学習指導要領に示された基礎・基本を重視し、次の力を育成する。

- 主体的・継続的に学ぶ力
- コミュニケーション能力・言語能力
- 思考力・判断力・表現力

道徳教育の指導の重点

- ～体験活動等を生かした心に響く指導を実践する～
- 道徳の指導方法に主体的・対話的で深い学びを取り入れる。
- 読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習。
- 問題解決的な学習。
- 道徳的行為に関する体験的な学習。
- 生徒が考えを深め、意欲的に取り組むきっかけとなる評価の実施。

特別活動の指導の重点

- 望ましい集団生活を展開する。
- 課題について議論し、主体的に解決できる自治的能力を高める。
- 自主的、実践的な活動を助長し、社会に積極的に参画する態度を育成する。
- 様々な人とふれ合う体験を通して、望ましい人間関係を形成する。

授業改善策の検証

- 練馬区、東京都、全国の学力調査の結果を活用した検証を行う。
- 定期考査、日常の小テスト等を活用した検証を行う。
- 生徒の自己評価を活用した検証を行う。

生活指導の指導の重点

- 生徒が将来の社会のよい一員となり、誠実に豊かな生活をつくりあげられるような資質や能力、態度の育成。
- 豊玉中生としての自覚をもち、自分を律して行動できる品格のある人間の育成。
- 基本的生活習慣(挨拶・TPOに応じた言葉遣いや服装・時間を守る・環境美化)の確立。

本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫

- 個に応じた指導や学び合い学習を重視する。
- 数学・英語科では習熟度別少人数指導をし、きめ細やかな指導を実践する。
- 学力調査の結果を受け、課題のある学習内容や指導方法について検討する。
- 言語環境を整え、コミュニケーション能力や言語の能力を高める。
- 基礎力満点テストを実施し、家庭学習の定着を図り学習意欲を高める。

教育課程編成上の工夫

- 朝の15分を活用し、朝学習と読書を行い、思考力・判断力・表現力を育成する。
- 放課後の時間を活用して、補習や補講を随時行い、基礎学力の向上を図り、学習意欲を高める。
- 夏季休業中には基礎学力を充実させるための補充教室を実施する。(国・数・英)

校内における研究や研修の工夫

- 指導技術の工夫やメディアの活用を推進し、生徒の実態に即した授業の充実に努める。
- 外部講師による研修を行う。
- 課題改善カリキュラムの開発、研究授業等を実践し、小中一貫教育の推進を図る。

評価活動の工夫

- 各授業において、自己評価を積極的に取り入れ、生徒の評価能力を高める。
- 補助簿の作成・活用を図る。
- 教科部会において、評価規準・評価活動について情報交換し、評価の客観性を高める。

家庭や地域との連携の工夫

- 教職員、生徒の地域活動への参加を推進し、相互交流を図る。
- 総合的な学習の時間等に地域の人材を活用し、話を聞いたり、共に活動したりする学習を設定する。
- 教員、保護者による校門指導や下校時の見回りを充実させ、生徒の登下校時の生活習慣を身に付けさせる。

小中一貫教育の視点

- 小中合同研修会を実施し、生徒が自分の意見や考えを持ち、それを発信できるような学習内容や方法についての研究や検証を実践する。
- 9年間を見通した課題改善カリキュラムの作成(30年度は道徳)と実践、検証(国・社・数・理・保体)を行う。